

新名誉会員の紹介：前会長 田口東氏

田口 東 氏

(1951年11月生まれ)



本学会前会長 田口東氏に対し、名誉会員の資格を授与することになりましたので、ここにそのお祝いの意味も込め、その功績を記させていただきます。

田口東氏は1974年に東京大学工学部を卒業後、三菱重工業株式会社に入社されました。その後、東京大学工学部に戻られて伊理正夫先生の研究室の助手を務め、工学博士の学位を取得されました。1980年に山梨大学に講師として着任され、1992年からは中央大学理工学部教授として教鞭をとられました。2022年に中央大学をご退職されるまでに、理工学研究科委員長、理工学部長、新たに附属学校とした中学校の責任者などの要職を務められました。一貫してオペレーションズ・リサーチの視点からの組織運営を心がけ、偏差値が大きく上がった学部・大学、附属学校の例としてメディアに取り上げられました。会議時間の圧倒的な短縮は関係者として非常にありがたかったところです。

2017年には本学会の最高の栄誉である近藤賞を受賞されました。そのときの選考理由として、「田口氏の研究スタイルは、さまざまな分野の企業からの相談に対応し、意見交換を通じて問題となっている課題の本質を見抜き、オペレーションズ・リサーチの手法を用いて解決策を与える実用研究である。」と記されています。

田口東氏の研究は、“リアル”という点が大きな特徴となっており、首都圏鉄道網を対象としてリアルな電車の運行とリアルな乗客の移動を計算機の中に再現した研究成果はテレビ、新聞、雑誌などのメディアからも注目を集めました。学会プロジェクトとして取り組まれた東京オリンピックの観戦客の移動モデルでは、首都圏の主要駅での混雑を予測し、インフラの増強ではなく、オペレーションの工夫による解決をご提案されました。この成果は海外からも注目を浴び、2024年パリで開催されるオリンピックに向けてフランス国鉄から2回にわたって取材（ヒアリング?）を受けま

した。無観客開催となりその成果が実証できなかったのが残念です。

本学会へのご貢献も枚挙に暇がありません。庶務理事、編集理事（機関誌）、副会長を歴任し、2020年からは会長を務められました。会長在任時には石器時代のごとくであった学会運営に関わる情報システムの改革に手をつけ、事務局・会員間で円滑に情報を共有できることを目指しました。そして、現在の会員管理システムおよび研究発表会やORセミナーなどの参加受付システムの導入を先導され、本学会の新しい基盤を立ち上げていただきました。

これまでのご功績を讃え、感謝のしるしとして名誉会員の資格がこのたび授与されることとなりました。

【略歴】

- 1974年 東京大学工学部 卒業
- 1974年 三菱重工業株式会社 入社
- 1976年 東京大学工学部 助手
- 1980年 山梨大学工学部 講師
- 1983年 山梨大学工学部 助教授
- 1992年 中央大学理工学部 教授
- 2003年 中央大学大学院 理工学研究科委員長
- 2005年 中央大学 理工学部長
- 2009年 横浜山手女子学園 理事長
- 2022年 株式会社バクトル総研 技術顧問

【OR学会関係】

- 1992年～1994年 庶務理事
- 1995年～ フェロー
- 1999年～2001年 編集理事（機関誌）
- 2008年～2010年 副会長
- 2020年～2022年 会長